ガメラ対宇宙怪獣バイラス（1968）

GAMMERA VS VIRAS

メディア 映画
ジャンル ファミリー　特撮
製作国　日本
色彩　Color
時間　72分
初公開日 1968/03/20
公開情報 大映

【解説】

　宇宙の彼方から植民地とする星を求めてやって来たバイラス人は、地球をその目標にした。しかし、バイラス人の宇宙船１号機は地球を目前にして、突如現れたガメラに破壊された。続いて派遣された２号機は、ガメラの過去の戦歴を調べ、ガメラが子供の味方であることを知る。ボーイスカウトのいたずらコンビである正夫とジムをスーパーキャッチ光線で宇宙船内に人質にとったバイラス人は、手が出せなくなったガメラに脳波コントロール装置をつけ、その支配下に置いた。バイラス人はガメラをコントロールし、世界各地を破壊させる。ここにおいて、バイラス人は地球人に全面降伏を迫った。人質をとられていることから国連は降伏を選択する。一方、宇宙船内の正夫とジムは、持ち前のいたずらの知恵を利用して、ガメラのコントロール装置を無力化し、自分たちも宇宙船から脱出した。コントロールから解放されたガメラは宇宙船を破壊、追いつめられたバイラス人は次々と合体し、ガメラを上回る巨体になって肉弾戦を挑んできた！

　シリーズ第４作、この作品から日本人と外国人の子供のコンビを主人公とし（これは海外輸出を考慮したため）、ガメラも完全に子供の味方として描かれている。主題歌「ガメラマーチ」もこの作品から使われている。と同時に製作予算もこの作品から大幅に減額され、そのためか、バイラスにコントロールされたガメラが破壊活動を行うシーンは、過去３作の特撮シーンを流用したものになっている（悲しいかな、モノクロ作品の第１作『大怪獣ガメラ』を流用したシーンでは、突然画面がモノクロになってしまう）。しかし、バイラス人の宇宙船のデザイン、人間体からバイラス人の正体が現れるシーン（首が飛ぶ）、人の体型を巧みに隠したバイラスの造形など、見るべきところも非常に多い。なお、バイラス人の人間体の一人を、かつて大魔神を演じ、後にブルース・リーと闘うことになる橋本力が演じていることは余りにも有名である。また、若山弦蔵は本篇では“ナレーター”としてクレジットされているが、作品内では“ボスの声”のみを担当している。

【登場怪獣】ガメラ／バイラス

【クレジット】

監督　湯浅憲明
製作　永田秀雅
企画　藤田昌一
　仲野和正
脚本　高橋二三
撮影　喜多崎晃
美術　矢野友久
編集　関口章治
音響効果　小倉信義
音楽　広瀬健次郎

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.

特技・合成	金子友三	
特技・撮影	藤井和文	
特技・操演	関谷治雄	
出演	本郷功次郎	島田伸彦
	高塚徹	中谷正夫
	カール・クレイグ・ジュニア	ジム・モーガン
	八重垣路子	中谷マリ子（正夫の姉）
	渥美マリ	青山順子
	八代順子	柴田正子
	ピーター・ウィリアムス	ドビー博士（国際海洋研究所長）
	藤山浩二	自衛隊司令官
	北原義郎	正夫の父
	高田宗彦	ジムの父
	メリー・ムロース	ジムの母
	橋本力	バイラス人
	豪健司	バイラス人
	夏木章	バイラス人
	中原健	バイラス人
	山根圭一郎	バイラス人
	篠田三郎	ボーイスカウト
	船田精二	ボーイスカウト
	稲妻竜二	ボーイスカウト
声の出演	若山弦蔵	ボスの声

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.